

# News Release

令和2年5月13日

教育委員会

## 画家・倉数和文氏より自身の画業約50年を まとめた作品集が寄贈されます

**概要** フランスでも高い評価を受けている唐津市の画家・倉数和文氏から、代表作をまとめた作品集が寄贈されます。

**1 寄贈日時** 令和2年5月21日(木) 午前10時

(大手口センタービル6階 教育長室)

**2 作品集名** 「倉数和文 自然と人と人の調和」

**3 倉数和文(くらかず やすふみ)氏について**

昭和27年(1952)唐津市生まれ。フランスの公募展「ル・サロン」、「サロン・ドートンヌ」を中心に活躍し、受賞多数。主宰する団体「和美会」の展覧会を市内で年2回開催。また、自宅アトリエで絵画教室を開き、幅広い年齢層へ美術の楽しさを伝えるとともに、美術大学・芸術大学進学を希望する若者の育成にも尽力。現在、ル・サロン永久会員、サロン・ドートンヌ会員。

**4 その他** 寄贈された作品集は、今後、近代図書館で貸し出すなど活用します。

(本件の問い合わせ先)

教育委員会近代図書館

担当：学芸係 松谷・坂元

電話：直通72-3467(内線3191)

# 倉数和文氏 略歴

1952年 佐賀県唐津市生まれ

九州産業大学大学院芸術研究科美術修了

現在、ル・サロン永久会員、サロン・ドートンヌ会員、「和美学」主宰

## 《個展》

79年：東亜画廊、83年：とわーる画廊、88年：唐津商工会館ギャラリー、91年：おいしい画廊、97年：風童門、01年：河村美術館、17年：旧唐津銀行本店

## 《展覧会》

西日本美術展（12・14・16・17・18回に出品 賞候補2回）

日仏現代美術展（86年、87年、88年、89年、90年、91年、92年、93年、94年）

ブダペスト国際展 Art of Today（87年、89年）

日韓現代絵画展（90年）

ミニアチュールプリントビエンナーレ（91年）

ロッズ小版画国際展（91年）

リュブリン国際反戦芸術展（91年）

上野の森美術館大賞展（92）

亜細亜現代美術展（92年）

ジャパン大賞展（92年）

ドローイング・デッサン・版画コンクール（99年）

サロン・ドートンヌ展（04年、05年、07年、08年、11年、12年、13年、14年、15年、16年、17年、18年）

※07年出品作品「風神」は、会期終了後に開催された3年に一度の展覧会「サロン・ドートンヌ選抜展」の出品作品に選ばれた。選抜作家のなかで唯一の日本人作家であった。

※16年出品作品「寿 INOTI」は、サロン・ドートンヌのホームページリニューアルに伴いサイトに作品が掲載された。日本人出品作品87点のうち、選ばれたのはこの作品を含め4点のみである。

ル・サロン展(07年、08年、09年、10年、11年、12年、13年、14年、15年、17年、18年、  
19年)

パリ国際サロン展(14年)

日本・フランス現代美術世界展(15)

## 《賞歴》

### ・日仏現代美術展

87年：日本賞（福岡放送賞）、フランス賞（クリティク賞 2 席賞）

88年：日本賞（佳作賞）、フランス賞（コンパレゾン賞 1 席賞）

89年：日本賞（福岡放送賞）

92年：フランス賞（フィガロ 2 席賞）

93年：フランス賞（アカデミー・デ・ボザール 3 席賞、ロイユ 2 席賞）

94年：日本賞（福岡放送賞）、フランス賞（アカデミー・デ・ボザール 3 席賞、クリティク 3 席賞、ロイユ 2 席賞、エコール・ナショナル・シュペリユール・デ・ボザール 2 席賞）

### ・ドローイング・デッサン・版画コンクール

99年：審査委員特別賞

### ・ル・サロン展

08年：銅メダル受賞

09年：フランス学士院芸術アカデミー賞、絵画部門アシル・フル・スターベイ 2 等賞

11年：銀メダル受賞

12年：金メダル受賞

### ・リュブリン国際反戦芸術展

91年：メダル受賞

### ・亜細亜現代美術展

92年：秀作賞

### ・パリ国際サロン展

14年：大賞

## ■和美学

倉敷氏が代表を務める唐津市内で活動する美術団体。昭和61年（1986）結成。会員で研鑽を積むとともに、美術大学卒業者など若い作家を育成すること、市民に美術に触れる楽しさを知ってもらうことにも力を入れている。毎年、近代図書館主催の「Kinto 市民美術祭」、唐津市民文化祭で「和美学絵画展」を開催している。

## ■ル・サロン（Le Salon）

フランス芸術家協会（Société des Artistes Français）主催により開催される通称「ル・サロン」は、350余年という世界最古の歴史と伝統を持つフランスの国際公募展です。過去にはフランス王立アカデミー設立に尽力したシャルル・ル・ブラン、静物画で名を成したシャルダン、ダヴィッド「ホラティウス兄弟の誓い」、ジェリコー「メデューズ号の筏」、ドラクロア「キオス島の虐殺」、クールベ「オルナンの埋葬」の他、コロー、ミレ、ドーミエ、マネ、モネ、ピサロ、ルノワール、ピカビア、ルオーといった偉大な作家が数多く所属していました。

1648年、ルイ14世統治下のフランスにおいて王立絵画・彫刻アカデミー（現在の芸術アカデミー）が誕生し、1667年にパレ・ロワイヤルにて「官展」が開催されました。

1725年に同展がルーヴル宮殿に場所を移し、1737年にサロン・カレ（方形の間）で開催されたことにより「サロン」と呼ばれる様になり、フランス文化に強い影響力を及ぼすようになります。1881年には芸術家達の手によりフランス芸術家協会が設立され、国より公益事業の認可を受けて以来、同協会が全ての芸術家に門戸を開く国際展として、今日に至るまで「ル・サロン」の運営を担っています。

近年は毎年1回、グラン・パレ本堂にて、統合サロン“ART CAPITAL”（アール・キャピタル）の一環として、コンパレゾン展、デッサン・水彩サロン、アンデパンダン展と同時に開催されており、日本からも多くの作家が挑戦しています。

※作品集より引用

## ■サロン・ドートンヌ（Le Salon d'Automne）

サロン・ドートンヌは1903年、パトロンとなる百貨店『サマリテヌ』を手がけた建築家・装飾美術家フランツ・ジュールダンを筆頭に、マチス、ルオー、マルケ、ボナール、カモアン、フリエス、ヴェイヤールらによって創立されました。

これは春の展覧会としてすでに知られていた「ル・サロン」のソシエテ・デ・ザルティスト・フランセ及びサロン・ド・ラ・ソシエテ・ナショナル・デ・ボザールの保守性に抗する気運の高まりを、“秋季展”として形にしたものであり、ルノワールやルドン、カリエール等の大家や、ロジェ・マルクス、ユイスマンス、ヴェルハーレン等の文筆家らの心を動かし、支援を得るまでになりました。

さらに数年遅れてドララン、ヴラマンク、ヴァン・ドンゲン、ブラックらが参加。フォーヴィズムやキュビズムの画家たちの活躍の舞台となり、近代絵画史上に大きな軌跡を残しました。

現在では日本でも多くの実力派作家の活躍が広く知られている世界的人気の国際サロンです。

※作品集より引用

## 作品集掲載作品の抜粋



「HIMAWARI」

2012 年  
ル・サロン 2012 金メダル

「歓喜」

2009 年  
ル・サロン 2009  
芸術アカデミー賞  
フランス学士院 アシル・フル・ス  
ターベイ 2 等賞

「夜景」

1989 年  
第 15 回日仏現代美術展  
日本賞:福岡放送賞